花矢町の沿革

花矢町は昭和３０年３月１日に，旧花岡町と矢立村との合併によって誕生した。

「鉱山の町花矢」はあまりに有名だが，私たち市民にもなじみの深い，日景温泉，矢立温泉，長走風穴，矢立峠など，豊かな景勝地を有している町としてもその名が知れわたっている。

むかしの花矢地区は浅利氏の領土であったが（天文の頃），浅利氏が亡くなってからは秋田氏に変わり，慶長７年，佐竹義宣氏が常陸から秋田に遷封されるまで秋田氏の統治下にあったといわれている。

そのごの花矢地区は，２６０余年にわたって，佐竹氏の封建下にあったが，明治４年，廃藩置県によって，現在の花矢地区は，花岡，白沢，長走，粕田，橋桁の５か村となってそれぞれ戸長役場が設けられていた。

そして，明治１７年７月には白沢外３か村（長走，粕田，橋桁）が合併，さらに明治２２年の市制，町村制度の実施により，花岡村と矢立村はそれぞれ自治体としての制度をしいた。鉱山開発の発展もあって，昭和７年には花岡村が町制をしき，３０年の矢立村との合併によって現在の花矢町が誕生したというのが，花矢町のおおよその沿革である。

このような歴史を持つ花矢町であるが，この花矢を語るに花岡鉱山の歴史を忘れてはならない。なぜなら現在の花矢町は鉱山の発展とともに歩んできた町でもあるからです。

ここで，花岡鉱山の若干の歴史についてふれてみましょう。

花岡鉱山は明治１８年，地元の浅利藤松，藤盛常吉，畠山万之進，藤盛貞吉の４氏によって発見された。この４人が発見したのは土鉱で堤沢，観音下，石仏などに露頭としてあったといわれ，これを小坂鉱山や　真木鉱山で分析してもらったところ，銀分が相当多いことがわかり，花岡の鉱山が急に評判が高くなった。このため，鉱区の出願に競争者が現われて激しいせい合いを演ずることとなったが，浅利氏らは小坂鉱山と打ち合せのうえ，久原庄三郎の名儀で出願したが，ほかに池田孫一氏と横山勇喜氏（大館の人）との３者の間に村民の支持を獲得する猛運動が展開された。その結果，横山氏が競願に勝ち，田口卯吉と共同して許可を受け，明治２１年から横山氏らの代理人である古内忠治，望月二郎の両氏が操業を始め，小規模ながら銀製錬場を設けて開発を進めた。しかし，中心の堤沢鉱床を堀り進むにつれ，硫化鉄鉱となり含銀率の低下から経営困難になったので田口卯吉氏は手を引き，結局明治２６年以降，１０年間も廃山となった。

そして，明治３７年，石田兼吉氏（石田博英氏の祖父）が横山氏から譲り受け，堤沢の旧坑を取り明けて硫化鉄鉱の採掘操業を開始した。これ以来，花岡鉱山は一度の休廃山もなく現在にいたっている。

石田氏の以後，同鉱山の経営は，東京の小林精一郎氏（明治４４年２月）から藤田組（現在の同和鉱業の前身で，昭和２０年１２月に現在名に変更）に移つり，戦時戦後の苦難の道をのりこえ，現在みるような姿に発展してきたわけであるが，このかげには，新鉱床の発見にも起因するものがあるものの，新技術の導入，経営の合理化等に絶えず努力をつづけてきた会社側の近代的な経営方針がその根本にあったからだと思う。

このような鉱山の流れとともに，その苦楽を同じくしてきた花矢町ではあるが，現在は山あり，川あり，温泉あり，そして明るく，豊かな町として成長してきたのです。

花矢町の著名人

＜鳥潟右一＞…工学博士

明治１６年花矢町本郷に生れ，花岡小学校から大分県立大分中学，開成中学，第１高等学校を経て明治３９年東京帝大の電気工学科を卒業す。

そのご，無線通信の研究に従事し，いらい多くの発明や改良につくした。なかでも明治４５年に発明した「ＴＹＫ無線電話機」の発明は，その技術の優秀さを世界に認めさせた大発明として賞さんされた。

大正１０年「世界に誇る日本の頭脳」として惜しまれながら世を去った。行年４１才。

＜鳥潟隆三＞…医学博士

氏は，花岡小学校卒業ご，大分中学，ドイツ協会学校を経て第一高等学校を卒業，明治３７年京都帝大医学科を卒業した。

卒業ご，母校にとどまり学究の途に入り，煮沸免疫コクチゲンやその他数多くの発明，研究を完成した医学者で，当時，京大に鳥潟外科ありとして名声をうたわれた名医でもある。

博士は郷土にもつくし，本郷地内の用水堰改修，永年にわたる伝染病予防用ワクチンの寄贈など町民の保健につくした。現在まちに寄贈されている「鳥潟会館」は博士の邸宅でもあった。

昭和２７年７４才で死去す。

＜鳥潟小三吉＞…曲芸家

本名，幸之助，天保１３年花岡に生れた。

幼少から曲芸の才があり，１５才のとき東京にで，そのご大阪におもむき軽業師として技をみがいた。

２４，５才のころ欧州に渡り，同僚の死ご座長として各地をまわり，ドイツの警察署長の長女と想思の仲となりめでたく国際結婚した。

帰国ごは各地を巡業，曲芸師鳥潟小三吉の名声は全国津々浦々までに知られた人である。

明治４２年１０月１５日６８才で病死す。

＜山本達治＞…工学博士

明治３７年７月５日，花岡字姥沢に生れる。

センダスト合金の発明者で，千葉工大，日大教授などを歴任した工学博士，現在は大日本特殊金属ＫＫの経営者である。

＜伊勢正義＞…洋画家

明治４０年２月２８日生れ

東京美術学校西洋画科を卒業，現在，新劇作協会の会員として創作に活躍中である。姥沢出身。

花矢町の名所

＜日景温泉＞

陣場駅からバスで１０分。明治２６年開場以来「３日ひと廻り」の名湯として知られている。

慢性神経痛，リューマチス，痔，皮膚，外科手術の回復，血行器障害などに効きめがある。

花岡小唄

花に行き暮れ　大山越こて
見れば花岡〈
灯がともる

蟻が這うかとよくよく見れば
人がいたいた〈
露天掘

名所旧跡

＜矢立廃寺跡＞

約６５０年前，後醍醐天皇の重臣，藤原藤房郷が世にのがれて仮住まいしたところと伝えられている。

昭和４０年，岩手大学阪橋源教授らの調査の結果，鎌倉期の禅宗伽藍跡と推定された。

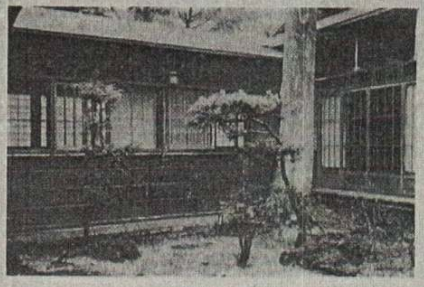
＜長走風穴と高山植物群落地＞

陣場駅から南に２Ｋ，国道７号線のそばにある。海抜１６０メートルにすぎないが，四季を通じて地表温度が６度４分から零下５度１分程度で，盛夏でも冷風が吹き出るという不思議ら場所である。

また，この地には欧亜植物区系の高山植物が群生しており，国指定の天然記念物としても学術上貴重な地でもある。

＜鳥潟会館＞

もと，京都大学名誉教授故鳥潟隆三氏の邸宅，現在は同氏から町に寄贈されているが，京風の庭園と明治以前の旧家の風趣をもつこの邸宅は県内随一と称されている。



＜矢立温泉＞

別名赤湯ともいい，天然杉の美林にかこまれた矢立温泉の美観は古くから人の知るところ。

リューマチス，腺病，貧血，皮膚，呼吸器，婦人病，神経衰弱などに効めがある。

＜釈迦池＞

花矢と市内商人留との境にあり，この周辺では一番大きな沼である。

白沢駅から１．５km，商人留から２kmという，比較的近かい所にあるため，夏にはハイキングやキャンプなどでにぎわっている。